



河野農園のオリーブ園。左から河野博己さん、陽子さん、嘉徳さん。

国東オリーブで このまちを元気にしたい それが夢です



JAおいた国東オリーブ部会
部会長
河野 博己 さん (安岐町山浦)

河野博己さんは、退職後は生まれ育った安岐町で農業をしようと決めていた。「ちょうど退職のタイミングで出会ったのが、オリーブ。農協、県、市が連携してオリーブ栽培に取り組んでいることを知って、私もやってみたいと思ったね。家族の後押しも大きかった」。自身のオリーブ園を眺めて、8年前の当時は振り返る。今では29品種、700本を栽培する市内随一のオリーブ農家になった。

「うちの加工部長です」。河野さんが照れ笑いをしながら紹介してくれたのは、妻の陽子さん。陽子さんは市の補助金を活用して、自宅隣にオリーブ加工施設を作った。「おいしくて体に良い国東オリーブを、もっと地元の方々に召し上がってほしいと思って、加工に取り組むことにしたんです」。「河野農園」のラベルが貼られた塩水漬けには、オリーブと共に夫婦の夢が詰まっている。

今年、「河野農園」に息子の嘉徳さんが加わる。嘉徳さんは、県の農業大学を卒業し、小豆島とキエウセツAQUAでオリーブ栽培を学んだ。現在は、実家の農園を手伝う準備をしている。「両親の後を継いで、国東オリーブでこのまちを元気にしたい。それが夢です」。嘉徳さんの瞳は、宝石のように輝いてた。



産地化を目指し 市の代表的な 農産品に育てたい

国東市農政課
園芸畜産係 オリーブ担当
嵩田 智昭

市内では、価格低迷等によりみかん農家が減少し、荒廃園が増え続けている状況にあります。その対策として、市は需要や付加価値が高く、観光との相性もよいオリーブに着目し、産地化を目指して植栽を推進しています。

市は平成27年より、生産者と栽培面積の増加を図るため、苗木代の4分の3を補助する「オリーブ苗木補助事業」を始めました。また、栽培方法が詳しく学べる「くにさきオリーブ学校」を開催し、新規就農者や規模の大きな生産者の育成を行っています。こうした取り組みにより、国東オリーブを市の代表的な農産品に育て上げたいと思っています。



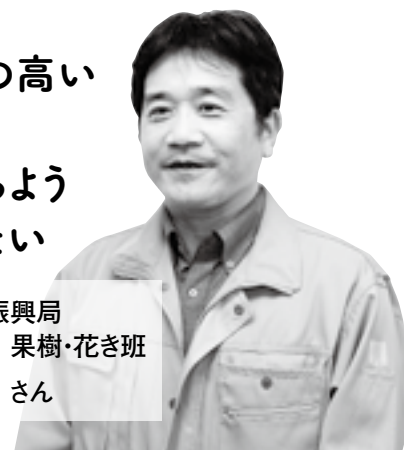
くにさきオリーブ学校

県東部振興局は、地域の課題解決を図るため、令和元年度より「国東オリーブ産地確立事業」を開始しました。この事業は、着果向上や収穫の省力化に取り組む「生産性向上対策」、新商品開発や国際オリーブオイル品評会で金賞を狙う「販路拡大対策」、安定栽培マニュアルの普及やオリーブ学校による「担い手確保」の3つの柱からなり、国東市のオリーブ産地化を後押しするものです。

近年、全国的にオリーブの栽培が広がり、ライバルとなる地域も増えています。JA部会や新規就農、参入企業等の国東市のオリーブ生産が、収益性の高い農業に成長するよう支援していきたいと考えています。

収益性の高い 農業に 成長するよう 支援したい

大分県東部振興局
生産流通部 果樹・花き班
佐藤 幸生 さん



国東オリーブを知ろう、食べよう、応援しよう

国東オリーブオイルフェア

市内6つの飲食店で、今期搾りたての「国東オリーブ」を使った料理が楽しめます。2店舗ご利用された方から抽選で、国東オリーブのミニボトルをプレゼント。

※詳細は市報の折込チラシをご覧ください。

市政バス「国東オリーブツアー」

本特集に掲載したオリーブ関係者（農家、企業、農協）を巡り、市民の皆さんに「国東オリーブ」について理解を深めていただくためのツアーを実施します。

※詳細は22ページをご覧ください。